

●都内のタクシーにはランキングがありました

既にご存じの方もおいでとは思いますが、都内のタクシー事業者（特別区、武蔵野市及び三鷹市）には4段階の評価があり、優良な事業者にはタクシーの左側面にAA、Aのランクステッカーが貼られています。

現在弊社で駅前広場のタクシー待ち列解消の検討（タクシーショットガン方式）を行っており、その中で財団法人東京タクシーセンターへヒアリングを行ったところ、「現在ランク評価の見直しを行っています」とのことでした。はじめは何のことかと思いましたが、タクシー事業者の評価を行い、ランク付けが行われていることを知りました。勉強不足を痛感しました。

この評価は平成13年5月に開始されたそうで、東京特定指定地域内に事業所のある法人タクシー事業者353社（平成23年3月31日現在）のうち349社を対象にAA、A、B、C、対象外の5種類に分類し、AA、A及び過去3年以上Cランクの事業者を公表しています。（AA、Aランクで231社）

<http://www.tokyo-tc.or.jp/user/yuuryouji/yuuryouji.html#yuuryou>

ただ、普段優良事業者のタクシーを選んで利用出来るかどうかは難しいところですが、あるホテルでは利用者待ちをステッカーのあるタクシーのみに限定しているところもあるようです。今度都内でタクシーを利用するときに確認してみてください。

大沼 安秀（取締役）

●低炭素地域・都市づくりシンポジウムに参加しました

東日本大震災以降、日本都市計画学会の「低炭素社会低炭素社会実現に向けた特別委員会」でもエネルギー問題が急上昇し、また、建築物レベルでは限界があり都市レベルで考える必要があるということで、当日は熱エネルギーの面的利用の議論でした。一部を紹介します。

未処理の下水を熱源として利用している例は国内で2箇所あり、1つは後楽一丁目です。ユーザーは熱供給プラント直近にあり、東京ドームホテルや黄色いビルなどです。直近であるにも関わらず全工事費の約5割が熱輸送用の配管の建設費です。

この例を踏まえ、高額の管路整備費をいかに低減するかがポイントになります。このため、新規整備する場合は、高速道路や鉄道、河川など既存インフラ空間の一部を活用します。さらに既存インフラ自体に熱輸送機能をもたせることとし、工業用水管路や上水管路、下水管路などの人工水系を使います。また、熱源として地下水や河川水、海水など自然水系を使います。利用されずに眠っている帯水層の普及はこれからです。

このように地域に遍在し安定しているのが温度差熱利用であり、技術的にはヒートポンプと蓄熱システムにより普及促進は可能です。重要なことは位置関係であり、土地利用や都市施設に、管路や人工水系、自然水系のレイヤーを加え誰もがアクセスできる情報とします。

このためには、資源がどこにあるのかを都市計画基礎調査やGISで整理し、都市計画に「都市エネルギー計画」を入れ込みます。自治体は柏市の例のように、地域別・市街地別まで踏み込んだ低炭素都市づくり方針を作成します。コーディネーターの小澤特別委員長は、5月に提言すると話されていました。

高尾 利文（第二計画部）

●ベトナムにおける持続可能な都市交通開発

近年、ベトナムでは急速に進行するモータリゼーションが大きな社会問題となっています。ベトナム登録車の統計によれば2006年から2009年の間に自動車の登録台数はホーチミンで約2倍、ハノイでは約3倍に増えており、二輪車の登録台数も増加の一途をたどっています。これに伴い、ピーク時の渋滞がより多くの場所でも発生する一方、駐車場が十分でない市街地では駐車車両が路地を占有し、元々良いとは言えない歩行環境の悪化が進んでいます。

この深刻化する交通問題に対処するため、ハノイとホーチミンでは都市鉄道の

計画があり、ハノイの3路線、ホーチミンでは2路線、プロジェクトが進行中(設計・建設)です。一方で、これらの都市鉄道の整備には、運営のための人材をどう育成するか、値上がりする建設コストにどう対応するかといったものから、どうやってネットワークを一体的に整備・運営するのか、駅の周辺や歩行者のアクセス環境を整備するか、といったものまで課題が山積しています。

都市と公共交通を一体的な整備と、都市鉄道を含む公共交通への旅客の誘導は、持続可能な都市・交通開発の観点から非常に重要です。従来の、二輪車と自動車でのドア・トゥ・ドアの、利用者にとっては大変便利な交通形態から、公共交通の利用へと転換させるには、歩行空間の整備や公共交通の商業地域の一体的な整備と、公共交通を利用するインセンティブを与える交通管理施策が必要不可欠です。

ベトナムに限らず、どのようにして公共交通に誘導される都市機能の集中によって、経済的な便益を得るか、また、各交通モードの適正な課金により、社会的に最適な交通システムを確立するか、については都市・交通計画の重要な命題です。ベトナムはどのような答えを出すのか、これからも見守りたいと思います。

坂井 孝典 (海外室)

発行責任者 : 代表取締役 庄山 高司
事務局 : 株式会社アルメック 業務部
東京都目黒区青葉台 1-19-14
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210
Eメール hotnews@almec.co.jp
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>

Copyright 2012 ALMEC Corporation. All rights reserved.